

うんぜんし まいどうぶんかざい  
**雲仙市の埋蔵文化財について**



このシンボルマークは、ひろげた両方の手のひらのパターンによって日本建築の重要な要素である斗供（組みもの）のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

文化財愛護シンボルマーク

なべしまてい はくつちょうさ  
**～鍋島邸の発掘調査～**



ながさきけんうんぜんしきょういくいいんかい  
**長崎県雲仙市教育委員会**

ひょうしはいけい なべしまてい ひかんさくら  
表紙背景「鍋島邸の緋寒桜」

## 鍋島邸について

鍋島邸は、江戸時代から続く神代鍋島家のお屋敷です。江戸末期ごろの建物を基にして、明治・大正・昭和と改修・増築され現在の姿になりました。平成19年には貴重な歴史資料として、国の重要文化財に指定されています。

## 発掘調査したのはなぜ？

現在の鍋島邸で一番古い建物は、万延元年（1860年）に作られた「御北」と呼ばれる部分です。二年後の、文久二年（1862年）には「長屋門」が建てられました。どちらもすでに150年の月日がたち、柱や屋根が傷んだり、建物下の地面も歪んだりしていました。このままでは壊れてしまう恐れもあり、大規模な修理工事が必要と判断されました。



「御北」も「長屋門」も「以前あった建物を建て替えた」ことが記録に残っていて、それぞれの地面の下には、以前の建物の痕跡が残されていると考えられました。修理工事では、地面の深くまで建物の基礎コンクリートを設置することとなり、以前の建物の痕跡がなくなってしまう恐れがありました。そのため、今ではわからない昔の建物の手がかりを求めて、発掘調査をすることとなりました。

## 発掘調査のようす

発掘調査は平成22年度に長屋門、平成23年度に御北部分を行いました。建物を解体すると、それぞれの建物の柱を支える基礎石が見えるようになりました。

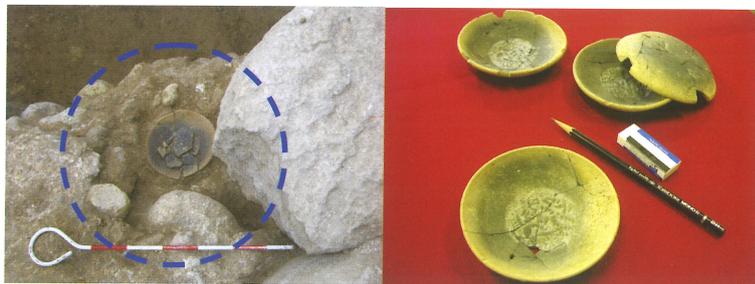


ながやもん 基礎石列  
長屋門の基礎石列



おきた 基礎石列  
御北の基礎石列

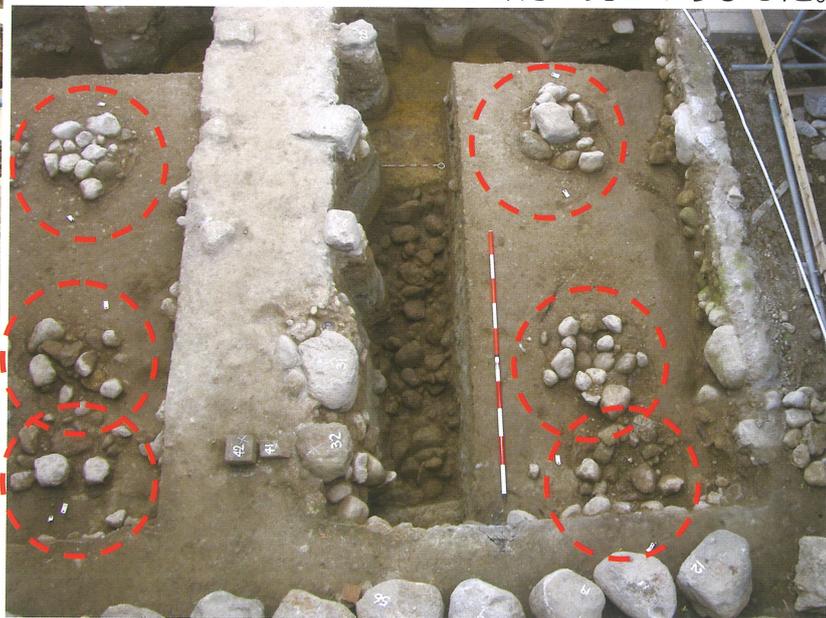
基礎石の横からは割れた土器の皿が2枚一組で発見されました。長屋門や御北を建てる際の地鎮のためのお供えと考えられます。  
(前頁青丸部分)



発見時のようす

発見された土器

基礎石を取り外しさらに掘り進むと、地面の下から10cm前後の石が集中している部分が見つかりました。



石の集中の断面



現在の御北の基礎石



建物基礎のイメージ

現在の御北の基礎石の下にも同じような石が使われており、発見された石の集中は、以前建てられていた建物の基礎部分と考えられます。

江戸時代の鍋島邸はどんな建物だったのでしょうか。

建物のあとだけではなく、当時使っていた器なども発見されました。江戸時代から現在まで続く建物とおなじように、いろいろな時代のものが見つけられました。神代鍋島家の家紋が入った瓦も見つかっており、家紋入りの瓦が使われたお屋敷があったと考えられます。



神代鍋島家家紋  
【松皮菱に蔦】



調査後は説明会を行い、多くの皆さんが古代のロマンを楽しみました。



発掘調査によって、これまでわからなかった昔の鍋島邸の様子がわかってきました。地面の下には祖先の暮らしを知るための手がかりがたくさん詰まっています。これからも雲仙市の埋蔵文化財を大事に守っていきましょう。



調査前の「御北」

